

平成26年3月22日

平成26～28年度中期事業計画

学校法人 東京成徳学園

「平成26～28年度中期事業計画」

【平成26～28年度の経営課題】

平成26～28年度の経営課題として、以下の諸点があげられる。

- (1) 平成28年度に始まる中等教育対象年齢人口の減少
- (2) 近年顕著になっている大学進学率の頭打ち
- (3) 大学の学部・学科新設に対する審査の厳格化
- (4) 実学化や資格志向等の教育に対する社会的ニーズの変化
- (5) 教育再生実行会議や文部科学省による学校改革や教育・研究改善活動の制度化・政策化

【教育・研究改善の目標と実現の方策】

以上の経営課題を踏まえて、各校は平成28年度に向けた教育・研究改善の目標を別表のように定め、各年度における各校のPDCAを通じて実現を図る。法人本部は、各校の教育・研究改善事業に対し、「3ヶ年行動計画（アクションプラン）」、「年度事業計画」、「年度予算」を通じて、組織、人事、財務、施設・設備等の所要の支援を行う。

【財務及び施設・設備目標と実現の方策】

近年、学校法人としての安定的なプラスの帰属収支の維持が社会的にも注目を浴びることとなっていることから、帰属収支額のプラス維持を目標とし、法人本部による予算策定及び収支管理の厳格化によって実現する。

また、施設・設備については、投資効果を十分に見極めて決定する。

【「東京成徳ビジョン100」の策定と実施準備】

学園は、平成27年5月を完成目標として東京成徳ビジョン100を策定する。各校は、策定に協力するとともに、ビジョンが円滑に実施されるよう、ビジョンを実施する体制を整備する。

【別表】各校の平成 28 年度に向けた教育・研究改善の目標

部 門	平成 28 年度に向けた教育・研究改善の目標
大 学	<p>大学の基本理念である、「共生とコミュニケーション」を社会との関係において実現する。教育研究の社会還元活動を強化し、他の教育機関や地域社会との交流・連携・提携を推進する。また、教員、学生レベルの海外の大学との連携・交流、海外留学、海外研修等の推進を図る。</p> <p>学生定員の安定的な確保による帰属収入の確保と、継続的かつ厳格に人件費や諸経費を見直し、帰属収支差額の持続的な黒字化を図る。</p> <p>教員一人ひとりの不断の日常的な努力と活発な FD 活動、それに対する財政的な支援によって、教育研究の成果を上げる。その成果は、「第三者評価」、「自己点検・評価」によって厳格に評価される仕組みを実効化することで、社会評価の向上につなげる。</p> <p>定員未達成の 4 学科については、入学定員充足を至上課題として、学外からの調査等を踏まえた原因究明の上で、対策を立てて実行するとともに、広報活動を充実させる一方、定員確保ができていない 3 学科については、教育内容の一層の充実を図ることで定員維持を安定的なものとする。</p>
短期大学	<p>幼児教育のプロとしての自覚と専門知識を有し、信頼される保育者を育てる。</p> <p>学生に対しては、新校舎建設によって充実する施設設備を活用して、より実践的な授業を実施する。</p> <p>教員一人ひとりの不断の日常的な努力と活発な FD 活動、学外や海外における研修機会の増大、それに対する財政的な支援によって、教育研究の成果を上げる。その成果は、「第三者評価」、「自己点検・評価」によって厳格に評価される仕組みを実効化することで、社会評価の向上につなげる。</p> <p>また、教育研究の社会への還元活動を強化し、他の教育機関や地域社会との交流・連携・提携を推進する。</p> <p>同窓生との連携を深める。その一環として、保育士・幼稚園教諭への再就職支援等の事業についても検討する。</p>

部 門	平成 28 年度に向けた教育・研究改善の目標
中学・高等学校	<p>建学の精神である「有徳な人物の育成」、これに基づく 5 つの教育目標（「おおらかな徳操」、「高い知性」、「健全なる身体」、「勤労の精神」、「実行の勇気」）を実現するため、以下の項目をより具体的な教育実践の柱として、教職員が一丸となって教育実践に取り組む。</p> <p>第一に「自分深め学習」の深化・実践を推進し、豊かな人間性の育成を図る。</p> <p>第二に授業の質・量の確保を図るとともに、生徒の到達度に対応できるカリキュラム・学習指導を工夫し、高い学力の育成を図り、高等教育への「進学」を支援する。</p> <p>第三に、チャレンジする力、粘り強く目標を達成する力、仲間と協力する力を育成するために、学校行事、部活動の活性化を図る。</p> <p>更に、教育のグローバル化に対応するために、新しい取り組みとして、「英語コミュニケーション能力」、「考え表現する力」、「創造する力」などを育成する。</p> <p>また、地域の学校、都内私立学校などと連携し、社会的活動などに取り組む。</p>
深谷中学・高等学校	<p>本校の教育目標である「国家社会の進展に寄与できる実践力に富んだ有徳な人物の育成」に基づき、第一に、規範意識と規律ある生活態度の確立を目指し、豊かな人間性と社会性の育成を図る。第二に、教育活動の根幹を成す授業の量的確保を含めた指導内容・指導方法の充実と、生徒による授業評価等による改善を目指し、確かな学力の育成を図る。第三に、部活動の活性化を図り、頑張りのきく体力・気力の育成を図る。</p> <p>以上、「徳育」「知育」「体育」のバランスのとれた教育活動を展開することにより、県民から、より確かな信頼を得られる学校を目指す。また、地域社会に対しては、教育活動の公開性を打ち出すために、「いつでも」「誰でも」が授業を参観できる体制を構築するとともに、スポーツ関係施設の開放拡大についても検討する。</p> <p>社会的評価については、現在行っている学校関係者評価や第三者評価を継続し、指摘事項や助言内容等を教育活動における PDCA サイクルに生かす。</p>

部 門	平成28年度に向けた教育・研究改善の目標
附属幼稚園	<p>保育を安全に実施することを第一とし、保護者と協力して、子どもたちのすこやかな成長を促す。大学、短期大学と連携した活動や内外の研修を通じて教員の質的向上を図り、より優れた保育を実践できるようカリキュラムの改善にも努める。</p> <p>また、本園の特徴である園児の潜在能力を引き出し、可能性を広げるための特別活動（スイミング、体育、美術、音楽、英会話）を通じて、一人ひとりの個性を伸ばす教育を行う。保育の中で、日本の伝統文化・行事（餅つき、ひな祭り、七夕など）を体験し、また四季折々の自然を感じられる園外保育（赤羽自然観察園など）を実施し、園児の豊かな感性を育む。</p> <p>園行事などで地域との連携を図り、地元の消防署訪問などの社会活動を通じて、園児の社会についての理解を深める。</p>
附属第二幼稚園	<p>保護者や地域の方々から信頼され、共に学び合う楽しさが実感できる幼稚園にすることが大切である。そのために、園児の健全育成、安全確保と保育内容の充実を図りながら、組織の活性化を図った運営に努めていく。そして、園児一人ひとりが認められ、ともに学び合う楽しさが味わえるように、創意ある教育課程の編成を工夫する。具体的には、本園としての特徴的な体操教室、英会話教室、スイミングでの活動など、園児の興味・関心に合った活動をこれからも取り入れ充実させていく。また、運動会・作品展・発表会等の行事を園児の目線に合わせた内容として取り組ませ、一人ひとりの成長を見届ける。</p> <p>次に、大学、短期大学と連携した活動や、内外の研修を充実させ、教員の資質向上を図ること。教員同士や子供同士の交流を近隣小学校と行い、幼小連携した活動をすること。与野ハウス（幼稚園のあるマンション）、地域住民との交流を図りながら温かな人間関係を醸成していくこと等、保護者地域社会からの信頼をより一層高めていく。</p> <p>以上、地域との信頼関係を構築することにより、園児の定員確保が期待され、さらに、園児募集の情報を周知すること、未就園児教室（たんぼぼクラブ）の充実を図ること、給食を導入し保護者の要望に応える等、今後も定員の確保に努め、地域に信頼され、共に学び合う楽しさを実感できる幼稚園にしていく。</p>